

## PART 3

➤ 現場技術者のための設備CAD最新トレンド

# 国内も海外もCADEWA Evolutionで統一 ユーザーとともに歩み 進化する設備CAD

## Feature



### 株式会社ユアテック

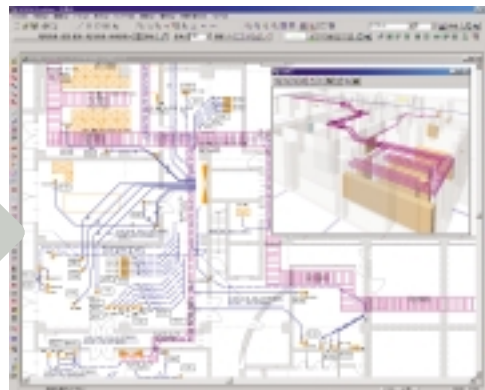
創立●1944年／資本金●78億390万円／URL●<http://www.yurtec.co.jp/>



### 「CADEWA Evolution」

### 株式会社富士通四国システムズ

URL●<http://www.shikoku.fujitsu.com/products/evolution/>



## CADEWA Evolution

### 設備の現場業務への深い理解に 裏打ちされたCADEWAへの信頼

仙台市に本社を置くユアテックは、東北エリア屈指の規模と実績をもつ総合設備エンジニアリング企業である。新潟県を含む東北7県を中心に関東から中部、大阪、北海道、そしてベトナムなど海外を含む広大なフィールドを舞台に、電力流通設備から電気／空調設備／情報通信／土木／建築に至るまで幅広い業務を展開している。そんな同社が、その主業の一つである設備分野の設計業務にCADを導入したのは、1980年代末のことだった。当時を知る同社設計積算室の山口氏は語る。「“これから”を見据えたトップの判断にもとづくCAD化でしたが、当時はまだようやく一般的な建築CADが出始めた頃で、この地域の設備会社としては早い方だったと思います。導入したのはUNIX系のCADとCADEWAの前身にあたる2次元汎用CAD。設備CAD自体、当時はまだ数が少なかったんですね」(山口氏)。このように当初は同社内で2種のCADが併用される形だったが、やがてOSの主流がMS-DOSからWindowsに変わり、さらに1995年頃にはCADEWAのWindows版が登場。パソコンの低価格化やWindowsの進化とともにCADEWAは着実に機能向上を重ね、同社の社内でも急速にユーザーを増やしていった。「CADEWAは私たちと同じ電気屋さんが作っ

たCADだけに、電気設備への深い理解に裏打ちされている実感があります。しかも私たちの要望も汲み取りながら着実に進化し、機能向上していったのですから、当社でユーザーが増えていったのは当然でした」(小林氏)。こうしてCADEWAは同社のCAD化の進展と歩みを一つにする形で普及していった。現在「CADEWA Evolution」は全社で500セット余りが稼働。同社の設備部門の主力CADとして揺るぎない地位を確立している。

### ベトナム人設計者も技術者も 迷わずCADEWA Evolutionを選択

ユアテックの設計業務は、まず本社・支社の各部門で設計図面を起こすことから始まる。受注が決まれば、この図面データをもとに各現場の技術者が施工図を書いていく。いずれもCADEWA Evolutionがフルに使われ、ほかのCADの出番はないに等しい。「汎用2次元CADもありますが、基本的にはCADEWAで作図し、提出は得意先指定の形式で納品します。作図にせよ修正にせよ作業効率に差がありすぎるのです。得意先から受領するCADデータは汎用2次元CADの形式が多いのですが、CADEWAはデータ互換も非常に優秀なので問題ありません」(小林氏)。——そんな小林氏の言葉を裏書きするような出来事がベトナムの拠点で起こったことがある。同拠点では設計も現地人スタッフ

が行っており、全員が海外では一般的な汎用2次元CADを使っていた。そこへ業務の効率化のため半数にCADEWA Evolutionを導入することになったのだ。

「言葉の問題でCADEWAの操作修得に多少の苦労はありましたが、稼働し始めるとその効果は劇的でした。CADEWAチームは同じ作業を汎用CADチームの半分程度の作業時間で行うのです。今後はさらにCADEWAチームを増員予定です」(山口氏)。いまや、このベトナムCADEWAチームは社内ネットワークを介して日本側のCAD業務支援も行うなど、重要な戦力となった。もちろん国内でもさらにCADEWA Evolutionの普及と操作技術向上を進めていく計画だ。

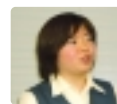
「電子納品が主流となり、納品物は電子データとしての精度が問われる時代です。技術者も図面を書くだけでなく、質の高いCADデータを作れるようにしていきたいのです。そのためにもCADEWAには、我々と共にどこまでも進化して行ってほしいですね」(山口氏)。

## ➤ User of this PRODUCTS



株式会社ユアテック  
営業本部 営業部 設計積算室  
係長

山口 洋氏



営業本部 営業部 設計積算室

小林由美氏